



年 組 名前

# 道新でワークシート

新  
ほっかいどう  
企業  
ファイル

▷20

## 十勝にこだわり菓子製造

菓子王国・十勝を代表する企業の一つで、故田村英也氏が1947年に帯広市で創業した。孫で3代目の田村英祐社長(42)は「後発の菓子店だったので、目新しさや挑戦することを大事にした」と語る。その象徴が、まぎの形をしたバウムクーヘンで、65年の発売から累計1億本を売り上げた「三方六」だ。

### しつとりの元祖

当時、ドイツ発祥のバウムクーヘンは硬めの商品が多かったが、日本人の主食であるコメの粘り気などに着目。しつとり軟らかい食感に仕上げた三方六は「しつとり系バウムクーヘン」の元祖とされ、その着眼点は菓子作りの根幹となった。

十勝を舞台にしたNHK連続テレビ小説「なつぞら」に登場した菓子に似ていると話題になった「あんバターサン」も、しつとり食感を受け継ぐ。地元を象徴する菓子を目指し、十勝が一大産地の粒あんバターを使ったサブレサンドで、2018年に発売。創業時から和菓子にバターを使い、あんバターの相性の良さを知っていた柳月ならではの菓子で、これまでに2千万個を売り上げるヒット商品に成長した。

### 健康志向に対応

初代社長が菓子製造を始めたきっかけは、満員列車で泣き叫ぶ子供に乘客の男性がキャラメルを手渡したところ、すぐに泣きやんだこと。菓子の不思議な力に魅了されたのが原点とい、今では年間約300種

類もの菓子を製造する。需要が高まる健康・美容志向への対応にも力を注ぐ。低糖質フームなど業界を取り巻く環境が厳しさを増す中、21年には健康菓子研究室を開設。今月19日には、大豆パフと3種類のナッツが入り、高タンパクが売りの焼きチョコクッキー「シヨコたん」を発売した。

類もの菓子を製造する。需要が高まる健康・美容志向への対応にも力を注ぐ。低糖質フームなど業界を取り巻く環境が厳しさを増す中、21年には健康菓子研究室を開設。今月19日には、大豆パフと3種類のナッツが入り、高タンパクが売りの焼きチョコクッキー「シヨコたん」を発売した。

人材育成にも取り組む。公益財団法人柳月財団は、進学する道内の高校生に入学準備資金として1人最大20万円を支給。15年度からの8年間で約300人に助成した。田村社長は「創業時から続く、家族の旦那らんや人と人の絆をつなぐ事業をこれからも続けていく」と話す。(鈴木宇宙)

### 柳月

- ▷本社所在地 帯広市大通南8の15
- ▷本部所在地 十勝管内音更町なつぞら1の1
- ▷創業 1947年
- ▷事業内容 菓子製造販売、イタリアンレストラン経営
- ▷売上高 83億4500万円(2022年9月期)
- ▷従業員 アルバイト・パート含め813人(22年12月末時点)

「三方六」や「あんバターサン」など柳月の主力商品を前に抱負を語る田村社長(加藤哲朗撮影)



2023年1月20日(金)朝刊 全道版 2ページ(記事は再編集しています)

- ① 見出しに「十勝にこだわり」とありますが、この企業(きぎょう)は地元のどんな特産品(とくさんひん)を使用していますか。
- ② この企業(きぎょう)がある帯広(おびひろ)市には、他にどんな特色(とくしよく)がありますか。地図帳やタブレットなどで調べて書いてみましょう。